

研究主題

豊かな心を育てる

－家庭・地域と共に生きる力を支える心と体の育成を図る－

北区立神谷中学校 中村文隆 他8名

1 研究のねらい

本校では「豊かな心を育てる」を教育テーマとして特色ある教育実践をしている。「豊かな心」とは、人や動植物へのいたわりや思いやり、自らを向上させようとする学ぶ意志、高い志、粘り強さ、正義感を重んじる心など、自分の行動をコントロールする思考活動であると広くとらえ、それらをしっかりと身に付けさせることが重要であると考えた。

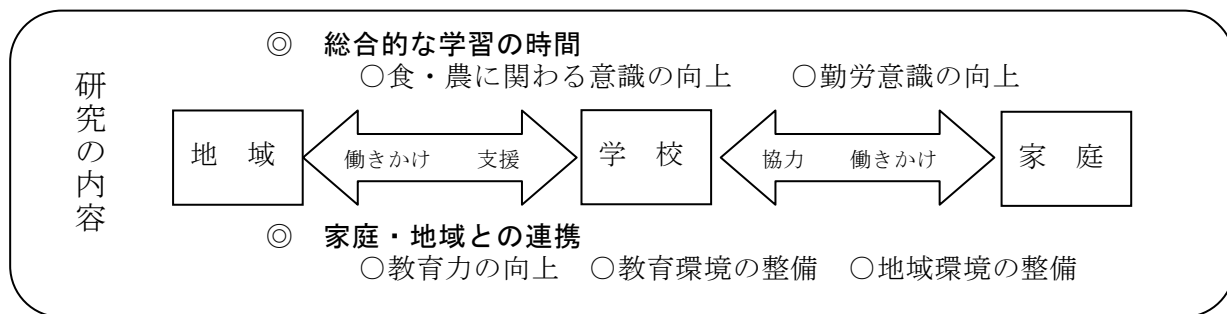
本研究では、「感謝の気持ちや思いやりをもった生徒」「自己実現に向けて努力する生徒」を育てることを具体的なねらいとしている。そのためには、学校が家庭・地域に働きかけ緊密な連携を図ることで、相互の教育力が高まり、より一層、豊かな心をもつ生徒がはぐくまれるであろうと考え実践的研究をすることにした。

2 研究内容

(1)総合的な学習の時間の工夫：総合的な学習の時間の使い方を工夫して、一年間を通して計画的に農業体験や職場見学・職場体験を実施した。

(2)家庭と地域の連携：教育活動全般にわたり家庭や地域の人々に参加を促し、地域参加型の教育活動として進めてきた。保護者、地域の人々とともに活動することで、開かれた学校を目指し、家庭・地域との連携を通して相互の教育力を高め、ともに豊かな心を育てるための教育活動を推進した。

(3)構想図



(4)豊かな心を育てる教育実践

(ア)農業体験（総合的な学習の時間）

実施日	農業体験活動	農業ボランティア	参加学年
4月25日	里芋植え付け ジャガイモ追肥	雑草取り・堆肥づくり	1・2学年
5月9日	田植え	雑草取り	全学年
6月13日	サツマイモ植え付け	雑草取り	1学年・地域・保護者
7月9日	ジャガイモ掘り・収穫祭	雑草取り	全学年・地域・保護者
9月12日	稲刈り	雑草取り	全学年
9月26日	稲の脱穀		1学年
10月15日	里芋・サツマイモ掘り・収穫祭	雑草取り	全学年・地域・保護者
3月13日	ジャガイモの植え付け	雑草取り	1学年

(イ)進路学習（総合的な学習の時間および夏期休業日の課外時間）

	職場体験（2学年）	職場訪問（1学年）
ね ら い	① 地域の事業所での職場体験を通して、それぞれの職業や産業の意義や役割について考えさせる。 ② 職業体験を通して、自己実現に向けての具体的な目標を考えさせ、次年度の進路選択へとつなげる。	① 職場を訪問し、働く人々から話を聞き、職業を身近にとらえ、生き方の一端を学び、自分の進路を考える機会とする。 ② 社会的な場における礼儀や言葉遣い、応対の仕方や態度を学ぶ場とする。
展 開	① 実施期間：7月および8月上旬の夏休み5日間。事前訪問1日、事後訪問1日を含む5日間。9時から16時までの設定。 ② 方法：少人数グループでの体験学習。教師のあいさつ回りと打ち合わせ。生徒による仕事内容など事前の聞き取り。職場体験（3日間）。報告書の作成（夏季休業日）。文化祭での発表。	① 実施期間：7月27・28日の午後。 ② 方法：見学アンケート及びグループ作り。訪問先への生徒による電話でのアポイントメント及び教師による確認の連絡。質問項目の検討。行き先、費用などの実地踏査。訪問時のマナー指導。前日及び当日指導。お礼状の発送。各グループによる新聞づくり及び文化祭での発表。

(ウ)「豊かな心を育てる」その他の実践

- i 学校保健委員会活動：生徒が健康や安全、体や生活習慣についてテーマを設定して調査発表する。校医や保護者の看護師、日赤ボランティア等を招き、生徒の発表について指導・助言を受け、健康や安全について理解を深める。
- ii 「収穫祭」「ふれあい給食」：地域の人々を招待し、農業体験で収穫したものを食材として野外調理や会食を行い、食のあり方や人々とかかわりについて学ぶ。
- iii 体験や主張発表会への生徒参加：健全育成に関する地域の会に、積極的に生徒を参加させ、中学生としての自覚を高めるとともに、地域の人々に見守られていることを認識する。

3 研究の成果

この実践を通して、本校生徒は、多くの保護者や地域の人々とかかわることになった。生徒は、農業体験や進路学習の体験活動を通して、自然や社会と直接触れ合う中から、学校での教えや学びが確かなものであることを自覚するようになってきた。

田植えでは苗を踏まないよう細心の注意をはらう。稲刈りでは一本の落ち穂も見逃さない。自然の恵みや勤労への感謝を実感している。また、職場訪問や職場体験では、地域の人々からの支援を肌で感じ、生徒としての自覚を高め、感謝の気持ちを素直に表すことができるようになってきた。

家庭・地域は、学校の教育活動に参加することで、教育方針や指導に理解を示し、協力的に支援してくれるようになってきた。連携を続けることで、生徒を取り巻く教育的環境が整い、生徒は安心して、自己の実現のための目標を確かめ、努力する自分を実感しているように受け止めている。

〈共同研究者〉

北区立神谷中学校 中村 文隆 山崎 昭雄 石川慎一郎 三井 哲夫
 " 渡辺 正明 品川千恵子 田中 繁広 荻原 沙織